

令和7年度群馬県歯科口腔保健推進委員会 議事録

開催日時：令和8年3月24日（火）

午後6時30分～午後7時45分

開催方法：オンライン

出席者（敬称略）

【委員】○：会長

- 佐野 公永 群馬県歯科医師会 常務理事
蟻川 篤則 群馬県学校歯科医会 副会長
長谷川万里 群馬県歯科衛生士会 理事
長坂 資夫 群馬県医師会 理事
佐藤 洋子 群馬県栄養士会 副会長
中西有美子 群馬県介護支援専門員協会
金井 孝行 群馬県歯科技工士会 会長
西牧 正行 群馬県保育協議会 副会長
岡田 芳久 全国健康保険協会群馬支部 支部長
河原 歩 群馬県後期高齢者医療広域連合 総務課保健事業室長
木下 樹 群馬県立小児医療センター 歯科・障害児歯科部長
亀山 知香 前橋市健康増進課 副主幹歯科衛生士
増田 淳子 群馬県重症心身障害児（者）を守る会 理事
牛木 義 群馬県議会健康福祉常任委員会 委員長

【幹事】

- 高橋 智之 健康福祉部健康福祉課医療・福祉連携推進室長
大熊 諭 健康福祉部医務課長（代理：次長 篠原 幸一）
武智 浩之 健康福祉部感染症・疾病対策課長（代理：難病対策係長 角田 澄子）
関根 智子 健康福祉部介護高齢課長
島方 紀行 健康福祉部障害政策課長（代理：社会参加推進係長 相馬 義昭）
山田 知利 教育委員会健康体育課長（代理：学校保健係長 小林 裕之）
小内 宏美 健康福祉部健康長寿社会づくり推進課長

○欠席者

鈴木 聡子 群馬県保健所長会（安中保健所医長）

鳥塚 里香 生活子ども部児童福祉課母子保健・障害児支援室長

1 開会

2 あいさつ（健康長寿社会づくり推進課長）

3 委員及び幹事紹介

4 議事

（1）第3次群馬県歯科口腔保健推進計画の進捗状況について

（事務局）

・5つの施策の柱について説明

・計画の進捗状況報告について、5つの施策の柱ごとにそれぞれ説明

（1）②12歳でう蝕のない者の割合：増加傾向

（2）②17歳における歯肉に炎症所見を有する者の減少：減少傾向

（3）①3歳児で不正咬合等が認められる者の減少：増加傾向

（5）①オーラルフレイル予防事業を実施する市町村の増加：目標達成している

②歯科医療機関と連携する医科医療機関の増加：減少傾向

3項目で改善がみられる。関係機関部局と連携して計画を推進していきたい。

（蟻川委員）

・【3歳児で不正咬合等が認められる者の減少】について、数値の増加は、検診での診断基準が曖昧なため、個人の主観で判断していることが要因ではないかと思う。小児歯科学会でも矯正に関する基準を定めており、改めて現場に周知し、確認する必要があるのではないか。

（佐野会長）

・基準など参考になるものがあるか

（蟻川委員）

・矯正歯科学会では、不正咬合の基準表が出ている。3歳児は過蓋咬合が残っている児が多く、スクリーニングで拾ってしまうことが多い（チェックがはいることが多い）。

（佐野会長）

・この項目の実績データは、「母子保健事業報告」から入手しているのか。

（事務局）

・そうである。

（木下委員）

・2015年に小児歯科学会で、3歳児の不正咬合について判定基準を出している（学会サイ

トに掲載あり)。参考資料として、健診の現場にパウチなどにしたものおいていただくのも手ではないか。

(佐野会長)

・行政を中心となり、各市町村に対し、基準となるマニュアルを健診会場においていただくよう周知啓発するのが良いかと思う。

(佐野会長)

・医科歯科連携に関して、長坂委員いかがか。

(長坂委員)

・(4)②【介護老人福祉施設・介護老人保健施設での歯科保健指導実施率の増加】について、診療報酬による誘導の影響が大きいと感じる。現実問題として、こういった形であれば成果が得られるか、別の指標を定められると良いが…。

・(5)②【歯科医療機関と連携する医科医療機関の増加】について、R8年度の診療報酬改定により、慢性的、長期的に入院せざるを得ない方の口腔ケアが評価されるため、医科歯科連携が進む方向に動くのではないか。また、誤嚥性肺炎や炎症等のある患者に対し、口腔ケアを行うことで進行をどの程度食い止めることができるのか、ある程度、数量化できる指標があるといいと思う。

(佐野委員)

・次回の診療報酬改定では入院患者への歯科評価がつくため、これまで以上に医科歯科連携が推進されるのではないかと思う。

計画の確認指標を変えたり増やしたりすることはできないか。

(事務局)

・現状ではこの指標で評価をせざるを負えないと考えている。

(佐野会長)

・(4)②については施設入居者の受診率は高いが、在宅の数が伸びないがその点はどうか。

(中西委員)

・現状、ケアマネ内では、歯科に対する意識づけがされつつあると感じている。このため、まずは歯科口腔ケアの大切さを伝えながら、歯科健診や歯科受診に繋げることができればと思う。

(増田委員)

・保護者からは、日頃の歯磨きのやりにくさを訴える声を聞く。また、口腔ケアを学びたいという声はあるが、相談先、情報をどこから取ればいいのかわからない。保護者や介助にあたる職員に対して介助や口腔ケアについて学べる機会があると良いが、そうした機会はあるか。

(佐野会長)

・小児医療センターではどうか

(木下委員)

・各市町村レベルでは実施していると思う。一方、実際、臨床の現場では、初診で歯磨き指導をした際など、「今まで指導を受けたことがない」という声をよく聞く。一次医療機関では、治療が主となることが多いが、一次医療機関の医師にもっと障害児者に関わっていただきたい。・また、外国人の患者が増えてきていることも、情報として知っていただきたい。多数う蝕を保有している外国人もいる。文化の違いなどで情報がとれていない人も多い。市町村によって対応に差があると思う。

(佐野会長)

・群馬県歯科医師会の1階にセンターがある。県歯科医師会へお問い合わせいただければ(障害児歯科診療の)協力医を紹介することはできると思う。治療となると小児医療センターもしくは群馬県歯科総合衛生センターへ紹介になるかもしれないが、口腔ケアなどであれば協力医でも対応できると思う。

(2) 令和7年度事業報告について

(事務局)

- ・オーラルフレイルの認知度が低いいため、認知度向上に向け、啓発促進を重点事業として取り組んでいる。具体的には、バナー広告や、YouTubeへの動画広告、チェック体験の実施や物品貸出などである。
- ・また、以下の事業を実施した。
 - ・在宅歯科医療連携室 7地区実施
 - ・DHハンズオンセミナー
 - ・保健福祉事務所歯科調整会議 10保福で実施
 - ・歯科保健大会
 - ・災害時歯科保健医療提供体制整備事業
 - ・その他
- ・このほか、関係団体においても、セミナーや職員のスキルアップなど実施していただいた

(長谷川委員)

・オーラルフレイルの啓発促進事業については、県で動画配信等行っていることを知らない人が多いと思う。どのように周知しているのか。

また、歯科衛生士のハンズオンセミナーについて、参加できる人数が少ないことが気になった。

(事務局)

・啓発促進事業については、G-WALKを活用して広く周知をすることもできるのではないかと思う周知方法について、今後、よく検討していきたい。

(佐野会長)

・歯科衛生士不足とも言われる今、離職者向けにも何か周知や啓発について検討いただきたい

い。

- ・オーラルフレイルの取組について、前橋市はいかがか

(亀山委員)

- ・R7は老人福祉センターや、みやぎふれあいの郷で歯科イベントを実施した。各会場で2か月に1度、パタカ測定会、噛む力測定会や災害時対策として歯科物品の展示を実施した。

(佐藤委員)

- ・(県栄養士会では、) 歯と口の健康について、特に事業は行っていないが、職域に応じて、保健センターでは成長発達に応じて噛む支援を行ったり、学校給食では6月健康週間に合わせて啓発資料の配布を行ったりした。

(金井委員)

- ・オーラルフレイルについて、(県歯科技工士会は) 直接的な関わりはあまりないが、協力できることがあれば今後も協力していきたい。

- ・80歳で20本歯がある者の増加について、年々増加傾向がみられている。歯科技工士会として寄与できているのではないかと思う。

(牛木委員)

- ・参考意見であるが、オーラルフレイルの動画について、再生回数が194回と少ないと感じた。内容的にインパクトが弱く、若い人が興味を持ちにくいと思う。例えば、日本人は口臭が気になる人が多いので、口臭からオーラルフレイルへつなげることができるかわからないが、そうした切り口なら、少し興味を持っていただけるとは思わないか。

(佐野会長)

- ・オーラルフレイルには、小児の口腔機能発達不全と高齢者のオーラルフレイルの2つの考え方があり、今はピークが低いから早くにオーラルフレイルが起きてしまうと考えられている。小児の口腔機能獲得と高齢期の口腔機能維持が課題となっている。

(西牧委員)

- ・(保育園では) 年に2回歯科検診が義務付けられている。歯科について勉強する機会があるので、そこで口腔機能に関する確認もできればよりよいと思う。

- ・子どもを幼保施設に預けていない親へ向けて、歯科に関して、子育て支援センターで歯科衛生士に相談できる環境を作ったりしている

(3) 令和8年度事業計画について(事務局から資料に沿って説明)

(事務局)

- ・令和8年度は、以下の3つの項目について事業を進めていきたい。

- ・歯科口腔保健の体制整備
- ・歯科口腔保健対策推進・環境の整備
- ・人材育成

(長谷川委員)

- ・口腔機能育成支援事業について県としてどんな事業を考えているのか。
- ・災害時に対応可能な歯科衛生士を要請する研修会とあるが具体的に何を考えているのか。災害時研修について、歯科衛生士会単独ではなく、歯科医師会を通じてなのか。

(事務局)

- ・研修会の具体的な内容については関係機関と連携して検討し、有意義なものとなるようにしていきたい。研修事業に関しては、歯科医師会を通じての実施を検討している。

(佐野会長)

- ・JDAT 研修会は今まで日歯が研修を実施しており、各県から 2 名程度しかできなかった。今回、地方研修会が認められたことから、R8 年秋に県内で JDAT 標準研修会の実施を検討している。
- ・南海トラフが起きた場合、群馬県 JDAT は愛媛県に入るといわれている。DH会には協力いただきたい。

(長谷川委員)

- ・行政がリーダーシップをとって采配を振るっていただきたいが、(常勤の) 歯科専門職がない。このため、歯科保健について多くの職種の方に理解いただけるように、引き続き多職種連携を進めていただきたい。

(佐野会長)

- ・関係機関同士が横断的に連携をとって、標準研修会を実施するまでに整えたいと思っている。

(岡田委員)

- ・現状、歯科検診は必須ではなく、オプション扱いである。(協会けんぽでは) 歯科衛生士会と連携して事業者向けに歯科に関するセミナーを開催している。協会けんぽの加入者は 61 万人、加入事業所が 3 万 9 千事業所ある。このため、県と連携できれば、周知等の対応が可能と思う。

(佐野会長)

- ・現在、国において、少しずつであるが「国民皆歯科検診」に向けた動きが進められており、来年度、モデル事業(厚労省委託)も手上げ方式で予定されている。

(河原委員)

- ・後期高齢者医療においても、定期健診で歯科検診を受ける高齢者が増えてきている。また、健診以外の場でも、歯科医院に受診する人も増えてきた。引き続き、歯科口腔保健の重要性について、周知を進めていきたい。

また、オーラルフレイルについて、歯科衛生士会とも連携し、各市町村のサポートをしている。